

重点戦略	主な取組	取組の現状
【含む】集落・地域の活性化と宍粟市への移住支援	② 移住希望者の受け入れ促進に向けた体制の構築 ① 集落・地域の活性化	<p>【地域の賑わいの創出～生活圏の拠点づくり～】 市民主体の委員会を設置し、第1のダム機能として「生活圏の拠点」づくりを進めるための計画を策定。計画には、利便性の向上と周辺の賑わいづくりを進めるため、既存公共施設を集約した市民活動・交流の拠点となる新たな施設の整備方針も含まれており、現在、ハード事業が先行して進んでいる。</p> <p>南北に長い一宮町域においては計画にある北部の拠点として、家原遺跡公園・まほろばの湯を中心に一体的な整備を行うことで地域資源を活かした地域の活力創出のため、平成29年度には地域から要望の高かった遊具設置、グラウンドゴルフコースの整備、平成30年度にはトイレ改修、案内看板設置等を行うとともに、子育て世代から高齢者までの代表による「一宮北部まちづくり委員会」を開催し、家原遺跡公園を中心とした賑わいづくりについて協議・検討を行った。これらの取組により小さな子どもを持つ子育て家庭、小学生を含めて家原遺跡公園の利用者が増加した。また、公共交通を利用した姫路→山崎→酒蔵→家原遺跡公園といったコース設定を行った。</p>
		<p>【持続可能な公共交通の確保】 交通事業者と連携し、H29から山崎待合所を中心に循環する路線が運行開始した。H31からは地域の意見を取り入れて大幅な再編をし、一部路線では増便が可能となった。</p> <p>H29から三ノ宮行高速バスの後面に宍粟市の観光等のPRプリントを追加で行うほか、H30からは4便増加の36便(往復)で運行開始するなど好調。H28より市内観光事業者とタイアップし500円で乗り放題の1日乗車券を発売開始。交通事業者の協力により特典付き西播磨ワンデーパスポートを発行し、西播磨管内での観光PRを実施した。また、バス利用推進員(88人)を委嘱し、地域での利用啓発を推進した。再編時にはしーたん通信でバスの乗り方動画の放映(H30内容更新)や出前講座を開催し、利用を促進した。高齢者を対象とした運転免許証返納時にバスチケットを配布した。</p>
		<p>【地域包括ケアシステムの構築】 病院と診療所、医療と介護の連携をすすめるための『しくみづくり』を関係機関で協議し、連携を図ることができた。生活支援コーディネーターが中心となり、地域づくりを視野に入れた取り組み、社会資源の把握や協議の場づくりの支援を行うことで、地域の支え合い活動への意識を高めることができた。総合相談事業は、医療・介護・福祉・権利擁護・生活支援・消費者相談などの相談の緊急性や家族の状況を考慮し、関係機関との連携によって必要な支援を提供した。</p> <p>いきいき百歳体操教室は、順調に開設しており参加者数も介護予防に効果が表れるとされる高齢者人口の1割の参加を大きく上回っている。また、体操教室に集まった機会を利用し、専門職を講師として派遣することで介護予防等の指導や普及活動を行った。</p> <p>さらに、いきいき百歳体操教室は週1回高齢者が集まり体操等を実施しているが、高齢者が集まる機会を利用して、参加者同士の自主的な見守り体制や簡単な日常生活の困りごとの助け合い活動が生まれている。</p>
		<p>【空き家の活用による移住・定住の促進】 農業委員会と連携して農地付き空き家を紹介するなど、移住希望者の希望に添える物件を登録できている。併せて、空き家改修等の助成制度を設けるなど、魅力的な定住促進施策を推進している。空き家バンク制度も一定年数が経過して市民に認識されている中、さらなる情報発信に努めており、物件登録、利用者登録とも多くの問い合わせ等があり、成約数も順調に伸びている。また、空き家バンク制度において、二地域居住希望者の登録も進んでいる。</p> <p>定住促進コーディネーターと職員で移住者宅訪問等を実施して相談を受けるなど、移住後のフォローに努めている。</p>

KPI	基準値	実績値				目標値
		H27	H28	H29	H30(見込)	
自治会・子ども会活動など地域活動に参加する人の割合	61.5% (H25)	—	—	—	69.10%	70%
日常的にスポーツ活動、健康づくり活動に取り組む人の割合	25.3% (H25)	—	—	—	34.20%	35%
市域のエネルギー自給率	28.8% (H25)	41.4%	47.9%	56%	—	42%
市内路線バス利用者数 ※()内:単年	16.6万人 (H26)	15.5万人	38.5万人 (23.0万人)	64.7万人 (26.2万人)	92.4万人 (27.7万人)	5年間で 100万人
「いきいき百歳体操」に取り組む高齢者登録者数	583人 (H26)	1,372人	1,753人	1,901人	1,975人	1,300人
空き家活用制度による移住世帯数 ※()内:単年	7世帯 (H26)	9世帯	28世帯 (19世帯)	43世帯 (15世帯)	63世帯 (20世帯)	5年間で 50世帯
契約設立件数	3件 (H26)	0件	0件	0件	2件	累計8件
通勤・通学助成件数 ※()内:単年	13件 (H27)	15件	31件 (16件)	51件 (20件)	72件 (21件)	5年間で 50件

重点戦略	主な取組	取組の現状
【働く】雇用の創出と就職支援	③ 地元企業・事業者の育成と発展 ④ 雇用の場の確保 ⑤ 若者の就職支援の促進	<p>【林業の担い手育成支援・宍粟材の普及、森林整備の促進】 担い手の確保・育成について、新規林業事業者等への支援により、初期投資に必要な新規就業者の雇用経費や高性能林業機械の購入・リースにかかる経費が軽減され、また、既存林業事業者においても同様に雇用経費の負担が減ったことで、搬出間伐をするための新たな班編成が可能となった。市内人工林の森林整備が急務な中で、新たな班編成による森林整備(間伐)に寄与するとともに、混交林整備など皆伐への対応も拡充されており、市内での雇用創出も図ることができた。また、県立森林大学の誘致により、担い手の育成につなげた。 一方、宍粟材の流通システムについては、市内2施設での原木取扱量は年々増加する中で木材流通量も比例して増えているものの、流通のほとんどは市外向けであり、市内での流通量を増やすことでさらなる経済循環の増加が望まれる現状の中で、エンドユーザーが安価な外国産材を求める傾向にあり、市内の素材生産業者や製材所、工務店等が企業間連携した中での宍粟材の普及啓発に行きついていない。</p> <p>【就労相談・支援の充実】 H29から開始した無料職業紹介業務について、H30は総合的な仕事の相談窓口として市役所1階で業務を拡充して開設し、市内の求人・求職情報を多く取り扱い、就業につなげることができた。また、就職サイトはりまっちに登録されている学生に向けて市内就職情報を発信し、市内企業情報を知ってもらうきっかけをつくることができた。 商工会、西兵庫信用金庫と連携し、合同企業説明会JUMP UP SHISOやインターンシップ事業の開催、企業インターンシップ推進事業補助金の創設など、就業支援に対する様々な事業も行ったが、市内企業への就職にはなかなかつながらなかった。</p> <p>【企業等への支援】 毎年3回、行政と商工会による経済懇談会を開催し、不定期ではあるが観光協会も参加する中、産業振興に関する課題や提言などについて、協議を深めている。 新たな産業の展開として、ビジネスマッチングの場である宍粟ビジネスサポートを毎年開催し、神戸のバイヤーとのつながりなど、販路拡大等に一定の成果を上げている。 また、商店街の賑わいづくりとして、商工会と連携する中、商店街の事業主を中心に、自分たちで商店街を活性化しようと『山崎中心市街地活性化委員会』が立ち上がり、委員会へ助成を実施し、商店街でのイベント実施や、新規店舗がオープンするなど、商店街の活性化に寄与している。また、兵庫県立大学と連携することにより、大学生の視点から見た商店街の活性化についてのアイデアを募集し、もみじ祭り当日にもスタッフとして関わってもらうことで新たな取組につなげることができた。</p> <p>【宍粟市産農林水産物等の振興・農業の担い手育成支援】 宍粟市北部に多く植栽している山椒を、「西はりま山椒」としてブランド化できるよう推進するとともに、新たな特産にハバナロ・紫蘇など検討を行っている。また、農畜連携事業として、昨年クラスター事業を行う事で、宍粟牛の増頭と併せハリマ農協の堆肥センターも改修することで、堆肥からの循環型農業をめざしている。また、学校給食の食材として市内産の農産物を活用し、給食通信等で周知することで、目的達成度としての数値化はできないが、市民への地産地消への理解を深める取組を行った。 農業の担い手育成として、宍粟北みどり農林公社及び県普及センターと共に畑の講習会を開催し、新規農業者の掘起こしを行った。(1回の開催 9名 現在までに合計3回 累計31名の講習会を開催。)</p>

KPI	基準値	実績値				目標値
		H27	H28	H29	H30(見込)	
市内農業総生産額【年間】	14.09億円 (H26)	14.09億円	13.49億円	12.22億円	13.30億円	14.29億円
素材生産量【年間】	80,203m ³ (H25)	87,989m ³	127,118m ³	84,079m ³	—	96,200m ³
宍粟材利用家屋建築への支援件数 ※()内:単年	16件 (H26)	12件	20件 (8件)	23件 (3件)	30件 (7件)	5年間で 65件
従業者数(工業統計)【年間】	4,605人 (H25)	—	4,114人	3,333人	—	現状値維持
従業者数(商業統計)【年間】	2,389人 (H24)	—	2,334人	—	—	現状値維持
若者の新規就農者数 ※()内:単年	—	2人	3人 (1人)	5人 (2人)	6人 (1人)	累計5人
新規林業雇用者数 ※()内:単年	5人 (H26)	3人	6人 (3人)	9人 (3人)	11人 (2人)	5年間で 20人
製造品出荷額【年間】	637.4億円 (H25)	—	568.6億円	610.4億円	—	現状値維持
商品販売額【年間】	412.3億円 (H24)	—	507.2億円	—	—	現状値維持
企業立地相談件数【年間】	14件 (H26)	12件	16件	9件	8件	15件
創業者実数 ※()内:単年	3件 (H26)	2件	3件 (1件)	11件 (8件)	24件 (13件)	5年間で 67件
合同企業説明会での新規雇用数	4人 (H26)	—	—	—	—	5年間で 35人

重点戦略	主な取組	取組の現状	KPI	基準値	実績値				目標値
					H27	H28	H29	H30(見込)	
【雇み育てる】少子化対策	⑧ 仕事と家庭をともに大事にするまちづくり（ワーク・ライフ・バランス） ⑦ 安心して、妊娠、出産、子育てができる環境づくり ⑥ ライフプランを考える機会の創出	【結婚支援の推進】 出会いの場の創出として、社会福祉協議会に委託している 出会いサポート事業については、結婚相談員の支援が成果を上げており、毎年複数の婚姻に繋がっている。 出会い応援事業については、毎年2回の交流会を実施し、交流会に併せて、身だしなみ、話し方、意識の持ち方などのセミナー開催し、カップルの成立の実績もあった。 ◆ 出会いサポート事業 イベントカップル成立数 H28:14人、H29:14人、H30:20人 結婚相談所お見合い成立数 H28:5人、H29:5人、H30:3人 ◆ 出会い応援事業 カップル成立数 H28:10人、H29:10人、H30:7人	今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小 94.7% 中 79.5% (H27)	小 94.7% 中 79.5%	小 92.7% 中 80.7%	小 86.9% 中 84.7%	小 86.8% 中 77.6%	現状値を上回る
		将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合	小 86.3% 中 67.8% (H27)	小 86.3% 中 67.8%	小 84.8% 中 75.6%	小 85.8% 中 74.1%	小 86.8% 中 70.8%	全国平均以上	
		カップル成立数 ※()内:単年	16組 (H27)	20組	46組 (26組)	73組 (27組)	93組 (20組)	5年間で75組	
		妊婦健康支援率	93.5% (H26)	97.50%	98.60%	108.70%	100%	95%	
		この地域で子育てしたいと思う親の割合	全国ベースライン 91.1% (H26)	94.8%	96.2%	97.4%	97.4%	93%	
		宍粟市内の25歳～44歳の女性の就業率	72.5% (H22)	78.60%	—	—	—	79%	
		「ひょうご仕事と生活の調和」推進企業認定数	—	0企業	0企業	0企業	0企業	5企業	
	【子育て支援の充実】 H29.4 子育て世代包括支援センター を開設し、 妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援により支援が必要な人への支援の充実が図るとともに、教育機関、医療機関、子育て支援に取り組んでいる機関との連携を強化した。 ※しーたん広場年間利用組数1,681組(H30年間延組数:222日開設) 妊娠・出産・子育てに関する知識と情報の提供のため、母子健康手帳交付時、新生児訪問時、乳幼児健診時等パンフレット等を用いながら情報提供を行った。また、 H31.2から子育てアプリを導入し登録者(H31.3末で350名)に、子育て、健診、予防接種等の情報がタイムリーに届けることができるようになった。 また、H30から宍粟市らしさを活かした子育て・教育環境づくり、郷土愛の醸成、森林資源の利用促進につなげるため、市民と森林との関わりを深める「木育」の推進を開始し、宍粟材を使用した誕生祝い品(木のおもちゃ)の贈呈や子どもたちが全国各地の木のおもちゃで自由に遊び、木とふれあうことができる木育キャラバンを開催した。								
	【ワーク・ライフ・バランスの普及啓発】 男女共同参画意識の醸成のための講演会や講座の開催について、従前の知識習得・意識改革を目的とした行政からの一方的な内容及び手法から脱却し、 少人数制によるステップアップセミナーの開催など、地域毎もしくは世代毎に関心の高いテーマを掲げた啓発手法に切り替えたことで、子育て世代などこれまで啓発事業への参加が低かった市民の興味関心を引くことができ、少しずつではあるが男女共同参画社会の考え方を広めることができた。								

重点戦略	主な取組	取組の現状	KPI	基準値	実績値				目標値
					H27	H28	H29	H30(見込)	
【まちの魅力】選ばれるまちづくり	⑨ シティープロモーションの推進 ⑩ 広域連携による宍粟市の魅力向上 ⑪ 移住促進につながる交流の活性化	<p>【情報発信の推進】 ふるさと納税については、ポータルサイトを平成30年度に2サイト(楽天・さとふる)増やし、また、かもめーの活用や期間を定めたサイトでの広告強化、パンフレットの送付などにより、宍粟市への寄附金がかかり減少傾向であったところに抑制をかけた。 モミジの紅葉期間が千種町～山崎町まで長期間に及ぶことから、全町域で連携したもみじ祭りとすることで一体的にPRするとともに、フェイスブックやきてーな宍粟で市内イベントの開催等をPRしたほか、東京、大阪や阪神間、播磨地域のイベント等において宍粟の特産品や観光地をPRした。 2020年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合が主催する東京都内のPRブースに3か月間にわたり出展し、宍粟市の食材や地酒をPRした。</p> <p>【グリーンツーリズムの展開】 競技場の整備に加え関係団体への働きかけにより、兵庫県高校総体、兵庫県カヌースプリント新人選手権、関西学生カヌー選手権大会、近畿高校総体カヌー競技、カヌースプリントジュニア海外派遣選手選考記録会、国体近畿ブロック大会を誘致することができた。 音水湖カヌーマつりを毎年7月下旬に開催し、カヌーを通じたイベントを行い音水湖のPRにつなげている。(H30は豪雨の影響で中止)</p> <p>【観光資源の魅力向上】 平成29年8月に総合戦略をより重点化した施策として「日本一の風景街道づくり」を掲げ、次の取組を実施している。また、市の補助制度により地域づくり団体の活動を支援している。これらの取組により、中心市街地活性化として旧城下町の景観を活かした取組や、棚田で収穫できる米のブランド化、街道沿いに桜を植樹し、桜並木として地域内外から人を呼ぶなど地域において活動の芽がでてきている。 ①景観形成につながる森林整備とともに、苗木を育成し配付した。(彩りの回廊プロジェクト) ②中心市街地活性化の取組支援による町並み再生支援を実施した。 ③最上山公園は平成28年度からモミジ等の植樹を実施し、平成29年度に最上山公園トイレを新設することで観光資源を拡大した。 ④耕作放棄地に対する景観植樹についての活用を支援した。 ⑤風景と生業づくり講演会を開催し、地域団体等の活動発表をした。</p> <p>宍粟50名山はガイドクラブにより宍粟別選5山を認定し、登山バスツアーを旅行会社と連携して実施した。 観光施設のトイレの洋式化、バリアフリー化・スロープ設置等を順次進めており、また、Wi-Fi化も一部の施設では整備されている。併せて、道の駅みなみ波賀を北部の観光施設の拠点として整備を行った。 宍粟材で製作した自転車ラックを道の駅や店舗に設置しサイクリストにPRするとともに、8市8町の連携中枢都市圏域事業の中で宍粟市のサイクリングコースを設定し、サイクリングイベント等を実施した。 市民等の参画による発酵のまちづくり研究会を立ち上げ、宍粟市ならではの発酵の取組について調査・研究を行った。</p>	ふるさと納税寄付金額 ※()内:単年	1.34億円 (H26)	2億円	3.3億円 (1.3億円)	4.4億円 (1.1億円)	5.36億円 (0.96億円)	5年間で 11.5億円
		ふるさと市民制度登録者数	200人 (H26)	267人	277人	346人	378人	300人	
		広域連携事業数(連携中枢都市圏) ※()内:単年	—	8事業	17事業 (9事業)	27事業 (10事業)	36事業 (9事業)	41事業	
		森林セラピー体験者数【年間】	—	—	947人	644人	434人	3,000人	
		氷ノ山ツーリズム登山者数【年間】	—	3,096人	3,393人	3,263人	2,948人	10,000人	
		カヌー利用者数【年間】	7,469人 (H26)	9,836人	7,868人	10,455人	9,027人	10,000人	
		年間観光入込客数	121.7万人 (H26)	127.6万人	116.5万人	106.1万人	104.9万人	136万人	